



414
A 641
1



陳時各會開場之際召集ノ派員自ラ
多職歸郷ノ類未上申

本縣臨時各會ノ儀ハ明治十四年一月ヨリ施行
スキ備荒儲蓄爲法及本年通商各會ニ於テ
建議セシハ長後増置ノ儀ハ付連帶スル
經費議定ノ爲メ縣會派員一同本年七月ヨリ
開會致シ資條廢下ノ案集テ招集状ヲ各
ニ共白述之内三拾名ノ派員各會ニ向テ任
多ク依テ金銀五拾名ノ年數ニ出ルテ既ニ派
ニ掛ラントスルノ前日本年六月席進第三百三号ヲ
以テ同名本年通商各會ニ於テ派員セシ地方費豫
算中郡運使及給料旅費及廳中諸費因

大正十一年四月
侯爵郵寄
贈



中給料額及給其ノ内諸在給ノ儀ハ認可
ヲ其ノ不原按ノ通据共テ九月二日何右不認可
ニ原不金銀徴収力不追々同派ナラテ以テ第
号ノ通各云々違セシ衆議欠法不カラ不服上
少議論沸騰シ名懸テ開会(即チ)ノ出向ハ心
別派長兩名(山崎勉水)ノ之議物拒絶(出向)ハ
ハ(昭野)一昨の違セラレ名違々依り衆議欠不服ヲ唱
来夕銘定セカルヲ以テ本日開物ヲ延ラシ夜ノ旨第
ニ号ノ上申書ヲ申セシ議物ヲ開申不ハ派欠ノ請
求ニテハ不徳尚ノ儀ヲ設法シ名不甘服不ラ以テ
詠書云々ヲ申下シ尚議欠ノ法之ヲ共カ痛メ更ニ
第ニ号ノ通り開会ノ限更定ノ旨ヲ違シ号第
除九日ハ罷物セト不ハ其日昇中派長山石水外

三拾名ヲ連署スルテ辞免云々議欠表トシ氣第
号ノ書面ヲ正副議長兩名縣廳ニ持セテ主任庶務
一面略シテ曰是と縣會派欠ノ退職不ニ縣令ノ許可
ヲ慢悞例ナリシ之ヲ社務不ハ之儀及今即チ届ニテ
宛手見込ナルヲ以テ決辭表差セ切テ一同明九日ハ
廳下ヲ拂フ旨ヲ申出有依テ縣廳ヨリモ何皆ノ沙汰
不モ候不招集ニ應シ采着シ名議欠ニシテ直チニ拂フハ
太夕不當ノ旨ヲ主任属官ヨリ申聞名ニ議欠一同其
沙汰ノ如何ヲ候キ旨ヲ述テ右兩名ノ取寄ヲ以テ正副
議長ヲ縣廳ニ呼出シ名議長(山崎)沙汰ヲ代理トシ
テ議欠川村實見副議長共計一ノ名出向シ依之右
兩名ヲ縣令大書記及ノ席ニ延キ持表人主旨トスル所
何レニ在ヤ怒ミシヲ尋子多リシ我ハ派欠ノ職ニ居リ

ナカラ縣令より不認可トセラド如キ凌議セハ平義人
才議劣ヨリ熱固不所ナレハ後何等ノ不是ラ人
臣ニ蒙ラレムルヤモ計リ難シ極テ速ニ職ヲ辞スト言フテ以テ
其儀ニ於ト議多ク於テ尤モ懸念過慮スル及ハヌナリ
全体政府ヨリ府縣會規則第五條ヲ設ケラルニ於テ其
明白ナリ各議多クモ其招出ヨリ請書ヲ出シ招集ニ應シタ
ル時ノ考モ議多ク於テ議決スルハ其モ縣令ニ於テ不認
可トセラルトハ万ニナキト確信シテ出シタルモアルマシ又縣
令ヨリ不認可ト思慮スルハ内務卿ニ於テ許カレサルハ其モ
ナシト申シ難シ今日政体ハ昔日異ニシテ裁判所等モ
匪裁判所アリ裁判所アリ上等裁判所アリ大審院アリ
テ各所ノ順ニ後々人民ヨリ告訴上告トシテ可ナルモノモ其不
便ヲ此ハサントノ法ニ意下同一ナリ縣會議多クニシテ適當

ト議決シタルモノモ府知事縣令ニ於テハ施政上如何ニ依
テ認可スカラフト思慮スルハ之ヲ内務卿ニ具狀其指
揮ヲ請フモノナレハ内務卿ヨリ時宜ニ依リ縣令ノ不認可ト
思慮スルモ認可スシト指揮アルトモアルニ其時ニ在テハ府知
事縣令ニ在テ其職ヲ辞セシハ職ヲ辱カシルト言フ詎
ニモ余ルマシカスレハ邂逅ニテ不認可ノ事ヲ以テ辭職ス
ルニエラスル然ルキ道理ナリ且卿向ニ主任ノ偏官申出ラレ
タル縣會議員ノ退職ハ縣令ヨリ許否スルニ及ハヌト言フハ
何等ノ主意ナルヤ各議多ク一旦數十人ヨリ出テ代
議士トナリ請書ヲ出シタル以上一人ノ思想ヲ以テ容易ニ
進退スル能ハサルモノナリト及後叮嚀ヲ懇篤ニ説諭ラズス
モ波心シタルナレハ速ニ其職ヲ離ルカ本旨ナルヲ述ニ且退
職ノ許否法律中明文ナキヲ以テ届ケテ代ルキモイ

詔旨ヲ申述スル於是縣令ヨリ斯迄言及ラテ盡シテ
諭スモ用井ルナキニ於テハ實ニ残念ナルヲ以テ爰應申
シタリトモ詮ナキナキトテ右ノ了簡次第ト申シテ法
律ニ明文ナキヲ以テ屈ニテ然ルキト詔ハ太夕不穩由
ノイリ從來詔旨ノ退職ハ縣令ノ許可ヲ得ルヲ不當トシ
明文ナキニ於テハ同ノ上ルヘトモ政スカ當然ナリ具任
中其職ヲ辞スル辭表ヲ出シテ縣令ノ許可ヲ請ルニ
尚理トハ能ク考按スキ旨申シ候ケルニ兩名暫ク思慮
辭表ハ縣令ノ許可ヲ請ルニ不當ト存スル旨ヲ述ルニ依
テ嚮ニ差セシタル辭表ヲ却テシ衆議多ク詳細申
シ是レ辭表トアラハ願書ニ請ノ出シテ素ヨリ指入セ
留ハ廳下ヲ引拂フ能ハサルモト心得キ旨ヲ申シテ兩名
退廳シタリ少時アリテ是前セシタル辭表ノ儘ハ五号ノ

別申書ヲ付シテ出セシヨリ朱書ノ通り指入ラ付テ之ヲ
下付シ開物ノ日限切迫スルヲ以テ第六号ノ通り開物延
ヲ違シテ同日詔旨申出ル水副議長ハ知知一幹事
信原基十郎、藤井市八、川村寛ノ五名縣廳出立
第七号辭表ハ願書付上申シテ先書面ラシテ前日副議長
ハ知知一カ一名ヨリ願書ニ之改理由ト申之ニテノ書面指
入ノ精神ヲ以テ願書及之旨申出ルハ、面晤ニ法律
明文モナク何分願書ニ之改理由ト申之ニテノ陳述
以テ願書ヨリ府縣ニ規則第六号ヲ推定シ尚書長
ヨリ法制局、顧問ニ對シ詔旨ヨリ之改理由ト申出ルハ
辭表ヲ以テ之旨申出ルニ於テ是實ニ不當トモナリ
申出ケルニ詔旨曰ク詔旨同詔旨ハ詔旨トシテ之
之旨申出ルハ詔旨トシテ之旨申出ルハ詔旨トシテ之旨

諸書ヲシテ出シタルモノナラハ之ヲ辞スル其裏ニシテ各々ニ對シテ
必キ申由ニシテ及後陳書ヲ為スルキ理由ナキ旨ヲ陳ヘシ
依リ各々ノ陳書ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ書面中
歟ノ文字ナキニ非ラス諸君ノ辭表ハ各々ノ許否ヲ請フキ
後ヲ示シタル後トハ得キ旨ヲ述ヘタルモノニテ各々ノ旨ニ
許否ヲ受ケタル精神ナルヲ以テ互ニ其精神ノ長ク短ク
何程陳述アルハ各々ノ旨ニ對シテ法律ノ精神ヲ知ル所ニ
各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
論ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
七号書面ニ朱書ノ通り指合ヲ付シテ不付セリ物ニ諸君
亦指表中不指可ノ條件ニ劣スル費額ヲ指シテ各々ノ
地租ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
八号ノ通り指合ヲ付シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
正副議長及幹事 前日

氏ノ名者各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
ラハ伏願方申述フキ旨ヲ縣公ニ書記各席ニ指合
此ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
面晤ニ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
ヲ欲當ニシタル旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
質問ニシタル旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
指合ニシタル旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
表ヲ付シタル旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
ハ欲當ニシタル旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
知リ許否各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
否スル旨ニ對シタル旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨ニ對シテ各々ノ旨
別局ヨリ送附シタル旨ニ對シタル旨ニ對シタル旨ニ對シタル旨
スル旨ニ對シタル旨ニ對シタル旨ニ對シタル旨ニ對シタル旨

公平に成すこと 辭表ラズは 要スル 質問ニ答ニシタレバ
テアルニ 軍ヲ成ル例ニ 犯ス 且許スニキ 方リテハ 之ヲ許シ
許スニ 方リテ 之ヲ許サルハ 許否ニ 否ノ 権内
ニシテ 否ニ 於テハ 許スニ 方ラズト 議者ヲ 許サルヲ 以テ 東
傳ニハ 思ハサルナリ 且 領事トカ 兼知トカハ 請求ストアリハ
不領事ニ 不兼知ト云フ 反對アリ 否 領事ノ 人氏ノ
扱ニ 方リ 請求ヲ 成スニ 方リテ 議決ノ 全体完クアラス 若
シ 請求ヲ 出サレハ 尚 拒スト 雖モ 議決ニ 犯ラス 然レハ
之 議決タル 請不請ノ 請求ノ 一点ニ 方リ 領事ニ 不領事
モ 之ニ 道程ト 及ナル ナキニ 向ラニ 互ニ 屬意ヨリ 以テ 否ニ 否ニ 陳
述スル 事件ナキニ 以テ 再ヒ 各々ニ 面晤ヲ 乞ハルナリ
述テ 延應ニ 同ナリ 勇九ノ 書面ヲ 出シ 同 各々
ニ 方リ 尚 決スル 件ニ 付 否ニ 方リ 要スル 件ニ 付 否ニ 方リ 同

フ可シト 雖 先以 不領事 情具 具 詳ニ 奏也

三三 岩村 代
中 三三 大書記 及 下 尚

内務 卿 松方 公 殿

114
A 641
2

節

康達第二千五百六号

各官派長山本如水

本年五月通常各官之於派決、甲第、七号派決、
郡吏、免、館、科、旅、費、及、麻、汗、諸、費、因、汗、給、料、額、
及、給、其、内、法、在、給、儀、之、追、于、何、分、指、令、不、及、
旨、節、向、在、連、置、之、交、府、各、官、規、制、中、五、系、依、内、務、
卿、指、揮、之、請、之、程、及、認、可、不、按、之、通、之、給、料、金、
五、系、七、号、四、百、就、給、園、給、其、内、金、七、号、就、百、就、給、之、
系、八、地、稅、賦、課、徵、收、系、其、旨、在、連、置、事、

明治十三年十月六日

三官派令岩村内之高

天正十一年四月

第ニ号

陸の各開場延の上申書

右の陸の各開場延の上申書は、
通常の各開場延の上申書に
取調の要を依る之の中、開場延の上申書に
一同申出、付た初上申一仕立也

各開場延

明治三十三年十月七日

山本如水

三官事務、岩村定之助殿

第三号

壬子

余云溪在山中如冰

陆时象云周物之微者九日更定一象出白
在道可

明治三十三年十月七日

三石山房主人岩村定高

三石山房

辭を云液欠表

陳情各々云同設に有りて液欠を其集に在る方カ液
 却に登らラト不ノ際且集に通常に云々於テ液定に以テ
 閣下ニ呈之先甲第セテ液案本ノ修訂ニ二目液の
 セラレサレ旨ヲ達セラレタリ夫以テ政府ニ各々ノ判決アリシヨリ
 既ニ二年本各通常陳情を云液ヲ開クテ共ニ三回閣下
 カ下付スル所ノ液案ヲ審液討論に以テ右案ノ不適出留法
 ル交ハ之ヲ修補改訂ニ閣下ハ之ヲ認可に以テ実行セリ然レ
 該修訂正ニ至テハ閣下ハ之ヲ不當トナシテ認可セズ帝位
 認可セザルノミナラス各々云々於テハ各不適出留ト認多
 系案ノ類ニ由テ徵收加之等ニ他社ノミ賦課スルニ至
 リ凡ソ物ノ程成ラシ各々或ハ小者ノ如ク長ク大ニテアルモ
 同案不カ道出留トスル金銀ハ該多カニ家ニ不適出留トスル

極アリ若し夫し且兼ノ如ク云液液ヲ以テ其ノミシ當テ其ノ名
 者トセシカ我ハ人民ニ對シテ其ノ弊ハ慙愧ノ大ナルモノアリ又之
 ヲ當テ其ノ名者トセシカ我ハ其ノ不道當テ其ノ不道歟然ラ以テ
 人民ニ徵收スルヲ見ル正焉リ液液ノ職當ニ對シテ其ノ
 安シテ其ノ得シヤ余心學液液ノ尚存ハ存ニ確立スルヲ能
 ハトシ其ノ得シヤ余心學液液ノ尚存ハ存ニ確立スルヲ能
 歟ラ其ノ得シヤ余心學液液ノ尚存ハ存ニ確立スルヲ能
 一リ余心學液液ノ尚存ハ存ニ確立スルヲ能
 シヤ夫レ其ノ得シヤ余心學液液ノ尚存ハ存ニ確立スルヲ能
 不似ト任シテ其責ヲ負ク今ニシテ職ヲ辭スルヲスハ
 向來何者ノ不道ヲ人民ニ其フルヲ知カラス故ニ余心學
 液液ノ尚存ハ存ニ確立スルヲ能

明治十三年十月廿日 紅毛紙

宗本如水

- 液々素御殿
- 赤口佐助
- 長井是之助
- 岩崎 松平
- 赤松 六右衛門
- 中田 辰輔
- 江南 春吉
- 赤村 龍太郎
- 赤松 久十郎
- 平田 祐十郎
- 鮎 平三郎
- 松野 佐吉
- 林 宗吉

新野市

海老

学門 茨城

川村 寛

原 彦次郎

信原 豊平

上田 五平

須田 市三郎

佐藤 宗市郎

聖品 貞次郎

乾 茂郎

小川 矩一

加藤 健十郎

沼田 市八

二原 重長 監

権治 宗次郎

小村 末次郎

三平 宗次郎 岩村 宗次郎 宗次郎

第壹号

辞表副件

已辨 渡渡辞表類書、可法台法中受、付
束、一同、知、尚、法、有、交、更、類、書、法、年
事、由、所、之、付、右、辞、表、再、と、進、達、仕、也

四
三
三
年
十
月
八
日

少
川
矩
一
以
打
寛

三
三
三
年
十
月
八
日

書
面
申
出
之
類
六
指
令
ヲ
受
ル
事
モ
一
ノ
付
類
書
ニ
記
ス
可
ル
ト
モ
假
ト
可
ル
ト
モ
平

似有由野為之云之付留之字及核々々々
四法三子有公 三子有公 岩村定之

第...
第...

庚子二五四...

以右降的為云開物之旨也違者不交進之
限有違之と開物延於系此旨有違之

四法三子有公 三子有公 岩村定之

三三
三三
三三

三喜丸八岩村定之殿

昔面之趣昨日居申書面、指令一通可也
何様なり

借書面一通付留之候下存候なり

四喜丸十有右三喜丸八岩村定之殿

第1号

各々取長山下如水

本月公付麻達弟二子五百六十号之以下在達矣
文付一金七千或百枚を余ノ下(有本年迄出申)
存云、於下渡取ノ上取の也之評号取取余銀計
ノ金銀加(七才四号)取取銀計ノ金銀ノ金
を第百六十号取取九取ノ下文字ヲ後取ノ余取取
達之也

四喜丸年十月九日 三喜丸八岩村定之殿

第九卷

拜祝師一七五

昨所存云、付系原、交當、百、出、常、云、云、於、
派、決、也、甲、第、七、号、派、案、修、正、二、目、不、決、而、旨、
方、違、正、之、物、于、以、原、各、下、人、氏、對、之、成、任、
存、台、也、了、ル、以、以、拜、表、を、申、交、表、を、申、
上、方、所、物、大、一、也、之、一、長、之、長、即、原、申、上、之、
受、理、者、於、于、許、否、否、權、了、ル、一、信、官、派、
表、於、者、之、派、一、手、把、由、之、一、付、拜、表、ノ、受、
不、受、之、間、ハ、不、派、欠、多、勿、減、派、下、
申、上、也、

明治十三年十月十三日

山本如水

信子(素子) 櫻丸

三

菅 佐郎
水村 末郎
長井 定三郎
岩崎 右平
森川 定右
吉田 玄輔
江南 玄房
市村 邦左郎
和波 久十郎
平田 祐十郎
沼 平三郎
杉野 佐右
林 宗右

佐 色 讓
美川 武治郎
河村 寛
東 玄次郎
信原 祐十郎
上田 玄平
須田 市三郎
佐野 玄市
野呂 貞次郎
乾 玄郎
小川 矩一
菅野 村八
梶沼 玄治郎

三才集人岩村山子殿

三才集
三
重
景
三
回
作
方
師